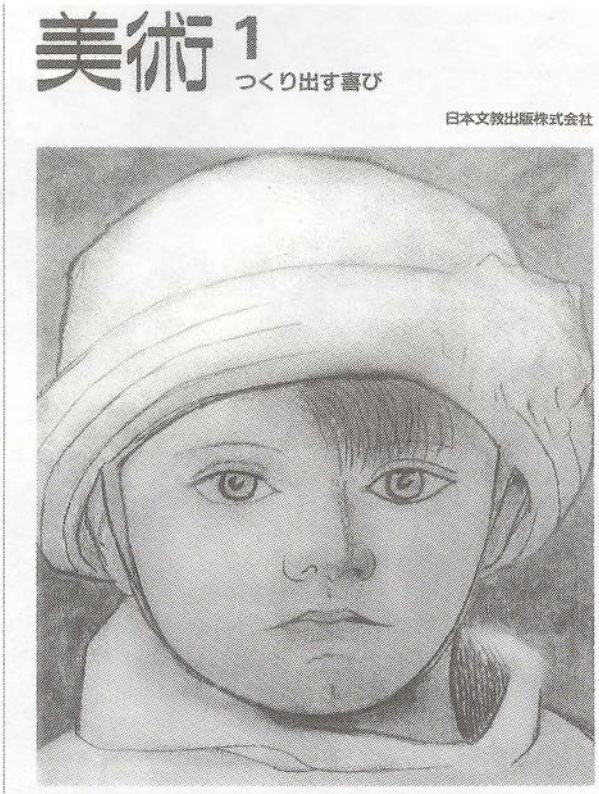
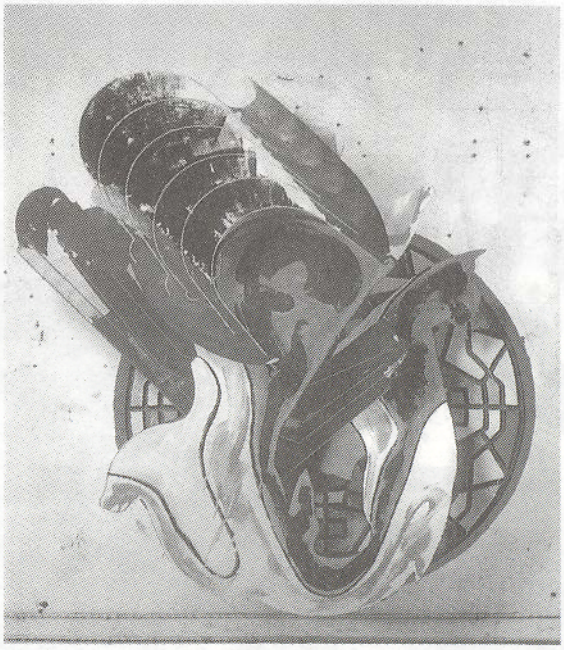
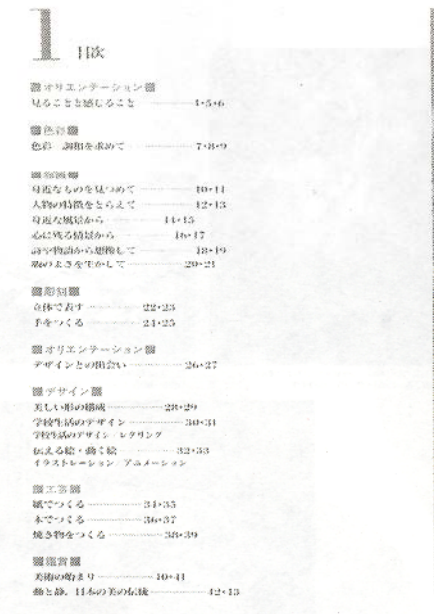
附錄一九







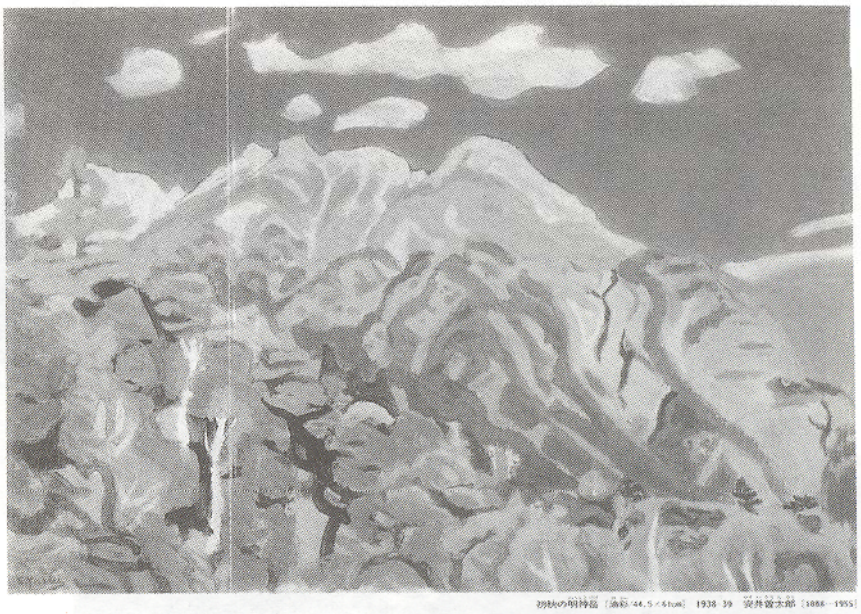
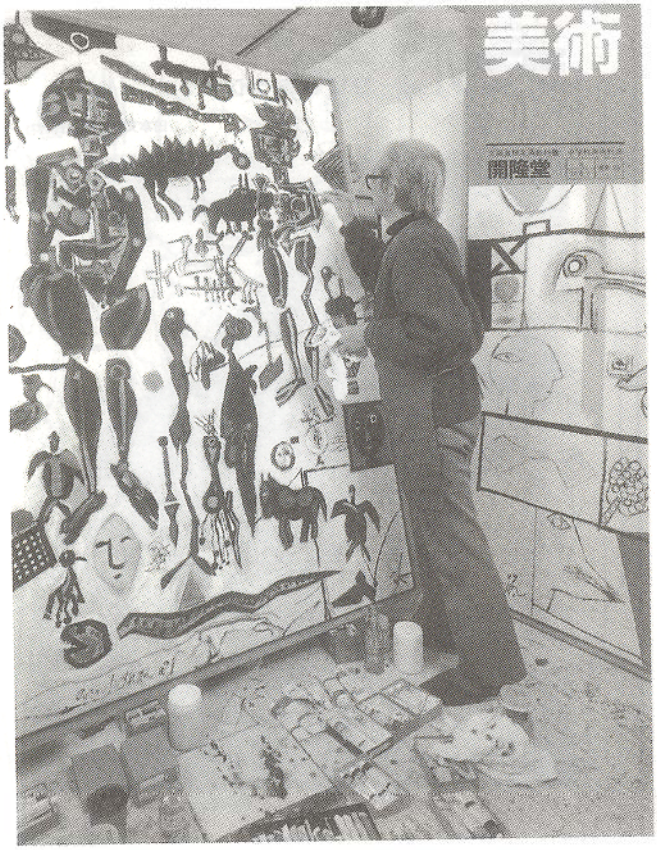
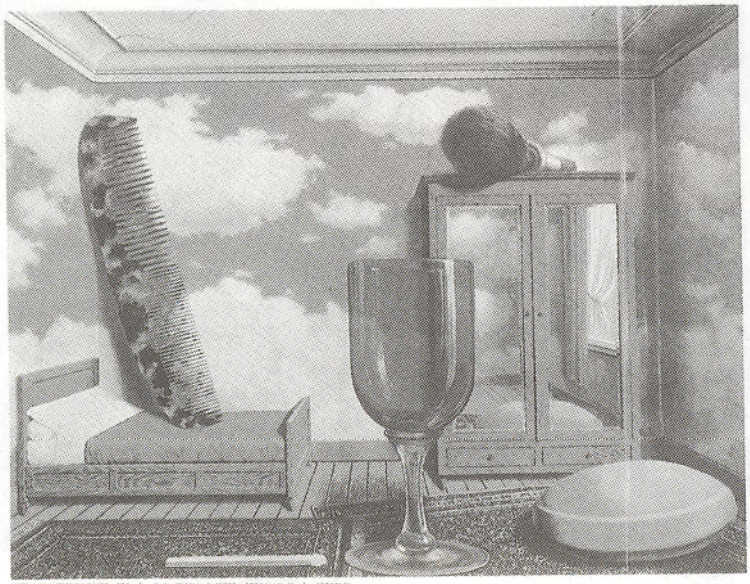


圖 2　美術教科書的封面與扉頁（日本文教出版社、1993）

附錄二〇





目　次

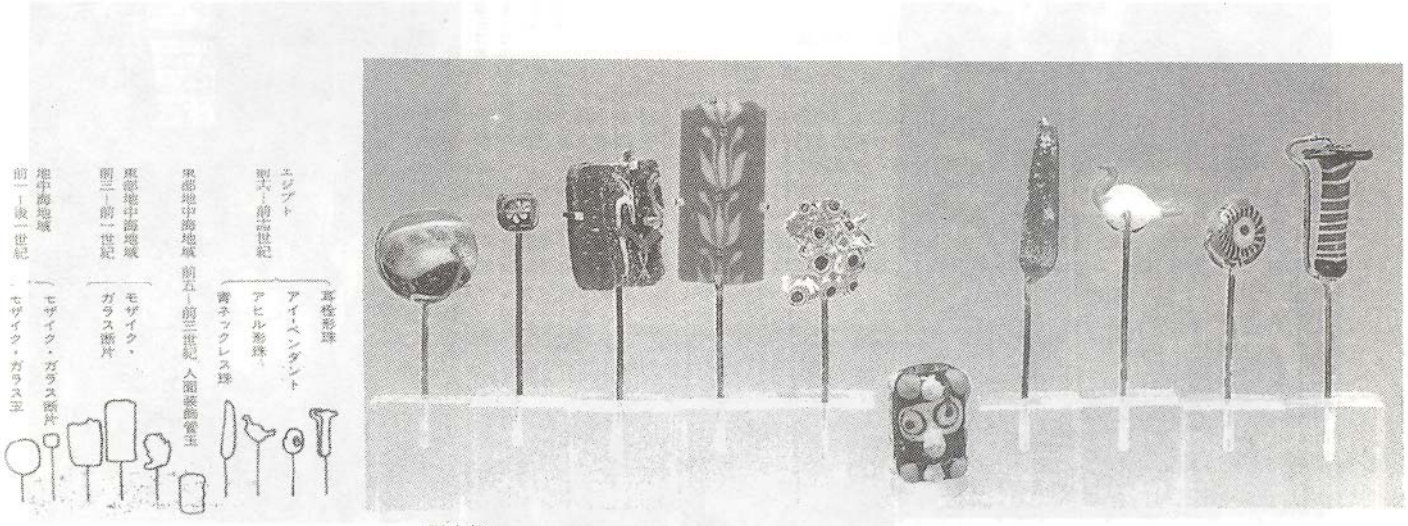
工夫を楽しむ……2, 3
大切なのは個性……4
　気持ちをすなおに……4～9
画面のどこに、何を描くか……10
　絵の構図も考えて……10, 11
　どんな風景にも個性がある……12, 13
　動きを画面に……14, 15
　イメージを組み合わせると……16, 17
抽象化で開花した現代美術……18, 19
面の仲間たち……20, 21
生命感のある表現を……22
　動きと躍感が心にひびく……22, 23
　的確な人物描写を……24, 25
鑑賞心で出発する……26
　切る、合わせる、生まれる……26, 27
　形が変わる、色が変わる……28, 29
　住む街をアピールする……30, 31
　みんなで期待する熱い思の行事……32, 33
つくる心と使う心の思いやり……34
　物語のある食卓……34, 35
　鳥の特徴が造形になる……36, 37
　形の出会いを楽しく……38
　金属材料で生命誕生……39
ものを見る目を確かに……40, 41
色にもはたらきがある……42, 43

工夫を楽しむ

人間は、ものを考え、つくることに喜びと幸せを感じ、意欲を燃やす生きものです。人をあっといわせることも好きです。ここに掲げた作品も人の意表をついたおもしろさと、その作家のもつ考え方が個性的に表現されています。みなさんもこれらの作品を鑑賞するとともに、自分の考えを楽しく表してみましょう。

圖3　美術教科書的封面與扉頁（開隆堂出版社、1992）

附録二一



〈原寸大〉

太古から現代まで
「生活をデザインする」

同じ地域に集まった人たちは、好んでそうしているわけではないが、似たような生活環境をもつようになる。言葉をかえていえば、人はそれほど環境によって支配される。

ただ人は、そうした環境のなかにあっても、さまざまな身のまわりの材料を用いて、生活に——実用的な面においても、美的な面においても、——役立つ〈もの〉をつくりだしては、自分たちの生活を向上させた。実生活を変化させただけでなく、ものの考え方を染いてきた。つまり、人は、ものをつくることによって、その時代の美意識を染き、その時代の生活観や人間観——思想——を形づくった。

人がこれほどまでに文化を発展させ得た理由の一つに、人間の記録性への意志がある。先人たちの文化を受け継ぎ、自らの文化をつくる人間である。

岡山市立オリエント美術館蔵

〔右〕
縁文碗〈高さ6.7cm〉
シリア　一世紀中ごろ
〔中〕
切子台付杯〈高さ11.6cm〉
イラン　六世紀
〔左〕
網目文長頸瓶〈高さ25.2cm〉
イラン　十一世紀

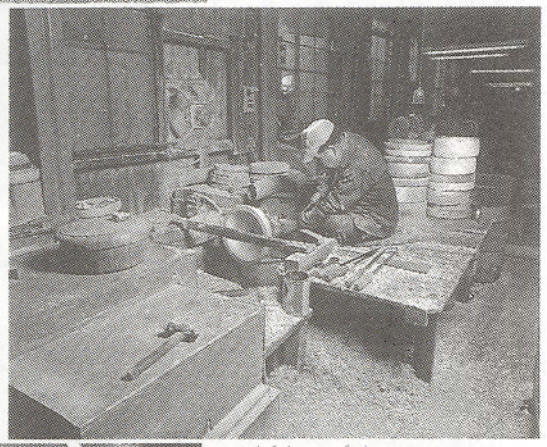
工芸の技

わが国には、すぐれた技から生まれる工芸の伝統がある。今日でもこの特色ある伝統的な工芸が、長い列島の各地に残っている。この伝統的な工芸は、それをはぐくむ自然と風土、そしてそこに暮らす人々とともに、多くのそれにかかわる人たちによって守られ伝えられている。

工芸の技は、単なるものづくりの作業ではない。それは思考とつくる行為が一元化した世界といえよう。機能や材料についても、そして美しさについてまでも、すべてがこの人たちの手を通して取り込まれ、技となる。作品はこの人たちの技を通して表れてくる。

勝山竹細工

岡山県真庭郡勝山町／江戸時代の末期に産地となった。真庭郡一帯に産する苦竹を使い、実用品をつくる。

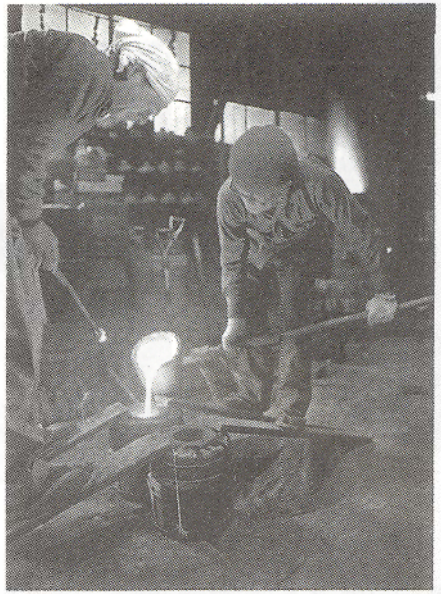


南木曽ろくろ細工

長野県木曽郡南木曽町／明治10年代に定着する。木曽谷に産する栃、桂、椹、檜などを使い、実用的で厚手の盆類、什器類をつくる。

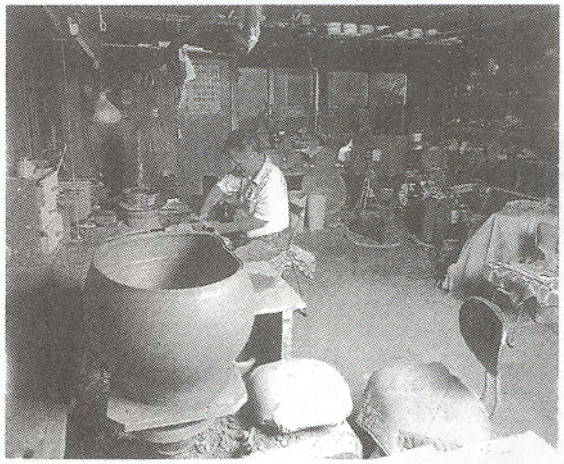
琉球紅型

沖縄県那覇市、浦添市、沖縄市／起源は古く、15世紀ころに中国から伝わる。型染で独特の模様と色調に特色がある。



南部鉄器

岩手県盛岡市、水沢市／桃山時代に始まるという。近くに産する山砂鉄、銑鉄、川砂、粘土を使う。茶釜、花器などをつくる。



丹波立杭焼

兵庫県三田市、加西市、多紀郡篠山町／日本六古窯の一つ。三田市の四辻粘土、篠山の黒土、木節粘土を主に使う。食器類、花器、装飾品などをつくる。

写真・横岸勝一郎（南部鉄器を除く）

目　次

オリエンテーション
工芸を学ぶ……
暮らしと工芸……

工芸の基礎的な内容
美の秩序……
平面表現……
立体表現……
工芸のデザイン……10
—発想とスケッチ—……
—模型—　—CG・図法—……
—図面—……
機能と形体……
構造と形体……20
工芸の制作……20
工芸の材料……20
色……40

機能・用途系
つつむ……10
にぎる……
すわる……20
あかり……20

材料・技法系
木でつくる……30
金属でつくる……30
七宝でつくる……30
土でつくる……30
染める……40
籐・竹でつくる……40
樹脂でつくる……40

工芸の技……前見返し
自然と生活……後見返し

附録二三

美術Ⅰ（２單位）　年度指導計畫例　　題材中の☆印：関連した実践例を本資料に掲載している題材

学期	月	題　材	時間	指導目標	指導内容	指導上の工夫・留意点
1学期	4月	○オリエンテーション	2	・美術の学習内容に関心をもたせ，学習の目安と抱負をもたせる ・美の価値を考えさせる	・教科書や生徒作品の鑑賞により，学習内容を理解させる ・学ぶめあてをもたせ，学習意欲を引き出す	・年間の授業計画表を用意する ・視聴覚機器を活用して具体例を示すなどして，理解しやすくする ・学習への抱負を文に書かせるとよい
		○記憶によるデッサン ☆(110～111ページ)	4	・対象を深く観察し，新鮮な発見や感動を引き出す ・確かなデッサン力を養う ・観察力，集中力を高める	・観察，記憶によるデッサンの繰り返しにより，観察力，集中力を養う ・視点の変化による形体の見え方の特徴，全体と部分の関係をとらえて表現させる	・対象の観察（約１分），記憶による制作（約３分）を繰り返して，表現を進めさせる ・デッサンする対象は基本的な形体とする
	5月 6月	○美術学習ファイルをつくろう	12	・条件を基に自分の発想を生かし，表現方法を工夫して制作させ，デザインの表現能力を高める ・使うことにより，自己評価能力，鑑賞力を養う	・リズムやバランス，変化と統一などの造形要素を学ばせる ・配色の効果や感情効果，色彩の体系を理解させる ・レタリングの基礎と生かし方を学ばせる ・作品を実際に学校生活の中で役立たせ，評価させる	・美術の学習資料を綴じ込むファイルをつくる ・幾何構成，イメージ構成など，生徒に選択させる ・ポスターカラーやマーカーなどによる彩色の他，コンピュータ・グラフィックスも活用したい ・粘着ビニルフィルムなどで表面を保護する
	7月	○級友を土でつくろう（彫刻） ☆(124～127ページ)	8	・対象を観察し，存在の確かさや表現の豊かさ，温かさなどを感じ取らせる ・造形的なよさや美しさをかたまりや面などにより，表現させる	・級友をモデルにして，スケッチをかさね，生き生きとした表情，構造を把握させる ・量感や動勢，面，比例をとらえて表現させる ・作品を鑑賞し合い，それぞれ表現意図やよさを味わわせる	・型取りの必要のないテラコッタで制作させる ・制作途中で，粘土に空気が入らないように留意させる ・十分乾燥してから焼成する ・作品の台もしっかりと制作させたい
	9月	○樹木を描く	10	・対象を深く観察させ，生命感や存在の確かさ，美しさなどを感受させ，明確な主題を明確にもたせる ・表現材料の特性を生かして効果的に表現させる	・主題を明確にした構成の工夫 ・季節感や光，空間をとらえ，自分独自の表現を追求させる ・作品を鑑賞し合い，個性的なよさや表現の工夫を味わわせる	・水彩画，油絵など，自己の表現意図に合った表現方法を選ばせる ・雨天時などを利用して，制作途中に相互の作品や名画の鑑賞指導を行う ・制作時の個別指導を特に重視する
2学期	10月 11月 12月	○身近な生活の中のデザイン（鑑賞） ☆(108～109ページ)	4	・様々なデザインとその機能を理解させる ・身近な生活の中で役立っている様々なデザインに関心をもたせ，鑑賞力を養う ・色彩感覚を高める	・身の回りにあるデザインで好きなもの，興味あるもの，気になるものなどを調査させる ・デザインの機能や条件，望ましいデザインの存り方などを研究させる	・文部省作成映画「生活を豊かにするデザイン」等を視聴させる ・興味をもったものをスライド写真に撮るなどして調査させる ・レポートにまとめさせるとともに，発表，協議によりさらに深めさせる
		○校内の総合的な環境造形（総合表現）	14	・色彩や形体が環境に与える影響や重要性に関心をもたせ，よりよくするための制作を行わせ，実践的な態度を養う	・グループを編成させ，校域内校舎内の美的環境面における問題点を分析させる ・環境改善の方策を考えさせる ・個人またはグループで制作させたものを実際に展示する	・公共の場としての学校環境と自己の表現との調和を図る ・環境を明るく美しく，心豊かにする絵画，モニュメント，絵文字，デザイン作品の制作のほか，コンピュータを活用し改善のためのシミュレーションを行わせるなどが考えられる
3学期	1月 2月 3月	○不思議な世界（鑑賞）	2	・優れた作品に接し，それぞれのよさや美しさを理解し味わわせる ・鑑賞することの楽しさを体験させるとともに，豊かな想像力を養う	・感想や発見を発表し合うことにより，作家の心情や表現意図に迫れるようにする ・続く表現題材と関連を図り，表現方法について指導する	・〈作家の例〉：ボッス，ダリ，マグリット，エッシャー，など ・視聴覚機器を活用する ・作家についての補助資料や作家の画集なども用意しておく
		○版画集「私の夢」 ☆(116～119ページ)	14	・自分の自由な想像を基に発想を広げ，構成を工夫し，生き生きと表現させる ・表現意図を効果的に表すため，表現材料や技法を工夫させる ・完成の喜びを友達とともに味わわせる	・スケッチを何枚もかき，主題をしだいに明確化させ，効果的な画面構成を工夫させる ・版画の技法を自分の表現意図と結び付け，活用させる ・刷り，製本の共同的な活動により，他の人との調和を図る ・友達の作品のよさを味わい，作品を大切にする態度を養う	・表現方法は銅版画，木版画などから選択させ，それによりグループを編成する ・遊び的な技法体験を発想の学習段階にさせるとよい ・イメージの具体化のため参考資料を用意させる ・作品を交換し，表紙，目次と合わせて，綴じ込んで作品集をつくる

工藝Ⅰ（２単位）　年度指導計畫例

題材中の☆印：関連した実践例を本資料に掲載している題材

学期	月	題　材	時間	指導目標	指導内容	指導上の工夫・留意点，用具等
1学期	4月	○オリエンテーション	1	・工芸の活動を通してつくるということの特性を理解させる ・つくる楽しさを理解させ活動への意欲・関心を高める ・美の価値を考えさせる	・工芸の学習のねらいや性格，内容について解説する ・授業の取組みや約束等を確認する ・１年次に学習する内容について説明する	○年間授業計画表を配布する ○生徒の実態調査（中学校美術の工芸で学習した題材，興味，関心等）を行う ○前年度の学習状況や作品の紹介 ◆生徒作品，ビデオ，スライド
		○色彩構成	3	・目的や条件を基にした主題を把握する能力を養う ・美的秩序を意図した色彩構成の工夫をさせる ・色彩感覚を高める	・構成の条件を示す ・色のもつ機能を生かした配色を工夫させる ・制作してみたい壁飾りを構想し図示させる	○目的や条件を明確に示す ○配色カード，色紙等を用いて色彩の組合せを研究する ◆コンピュータ ◇コンパス，定規等の製図用具
	5月 6月	○木の壁飾りの制作 （木に思い思いの表情を与えてみよう） ☆(158～159ページ)	12	・木のもつ特性を基にした制作の構想を練る力を養う ・材料や用具の性質を理解し活用する能力を養う ・生活を豊かにする態度を養う	・制作のための技法，手順を考えさせる ・材料，道具について理解させ，制作意図の実現を図らせる ・材料固有の色を生かしたり，塗装等の表面処理の効果について工夫させる	○制作に可能な設備，備品をリスト・アップする ○用具を正しく安全に使用できるようにする ◆糸のこ盤，ワックス等 ◇彫刻刀，小刀等
	7月	○平織りの基本を用いた花瓶敷の制作 （いろいろなものを織り込んでみよう）	10	・平織りについて理解させる ・身の回りの織物に興味・関心をもたせ，工芸品を愛好する心情を養う ・伝統的な工芸に見られる織り方を活用する能力を培う	・色彩構成の学習体験を生かしてデザインさせる ・縦糸と横糸の関係を知り，デザインにふさわしい材料を収集させる ・形成方法（曲げ，つなぎ，模様，止め等）を工夫して制作させる	○地域素材の活用 ○基本的な織り方について図版等をプリントして配布する ○縦糸と横糸の関素材による織り方の違いや素材の生かし方が理解できる参考作品を用意する（伝統的工芸作品例等） ◆古キャンバスの枠，コンピュータ等 ◇様々な素材，タコ糸等
	9月 10月	○ステンドグラスのティファニー技法によるコースターの制作 （ガラスを身近に扱ってみよう）	12	・ガラスを扱うことを通して美的体験を豊かにする ・ステンドグラスについて理解し，基本的な技法を習得させる	・色彩構成の学習体験を生かしてデザインさせる ・光とガラスの色，縁取り部分の黒が生かされるように工夫して制作させる	○ガラスやハンダ付けの取扱いに留意する ◆ハンダごて，オイルカッター等
2学期				・ステンドグラスを生活の中に生かす喜びと楽しさを味わわせる		
	11月	○アルミの板材による容器の制作 （様々な打ち出しを工夫してみよう） ☆(150～153ページ)	12	・金属材料のもつ特性を理解させ，材料や用具を活用する能力を養う ・材料から立体の容器をつくり出す喜びを味わわせる ・使ってみて，作品を吟味する態度を養う	・アルミを打つ道具と台を選び，手順を考えさせる ・焼なましと芋槌による打ち出しを繰り返し，意図する作品を制作させる	○絞り加工と突き出し加工の方法を範示する ○伸ばし打ち，縮め打ちの際に金槌の形と台の硬さ及び形に配慮する ○焼なましに際し，溶解させないように配慮する ◆ガスバーナー，芋槌，ハンマー，えぐり刃きりはし，押し切り，定尺板
	12月	○鑑　賞 （生活の中の工芸作品） ☆(180～183ページ)	4	・工芸作品のよさや美しさを感じ取る能力を養う ・日常生活や伝統的行事と工芸品との関連について考える態度を身に付けさせる ・批評力を養う	・身近に使用している工芸品を持参させたり，ビデオ，スライド等で取材させ相互に鑑賞させる ・記述式，口答式の方法を用いて作品を批評させる	○視覚以外の感覚（触覚，聴覚，嗅覚，味覚等）による鑑賞も進める ○互いに批評し，意見を交換し批評能力を養うよう留意する ◆ビデオ，スライド等
3学期	1月 2月	○陶器のランプシェイドの制作 （土を焼いて生活に生かしてみよう）	14	・目的や条件に基づいて材料を活かす能力を養う ・陶器についてに理解と制作の喜びを味わわせる ・生活を豊かにするために工夫する態度を育てる	・照明方法，照明器具，照明環境について検討し，イメージスケッチをさせる ・使用目的に応じた技法・構造を考え，手順を明確にして制作させる	○照明方法（直接，間接，その他）について実例を示す ○照明器具のカタログ，関連雑誌等の検討 ○中学校における陶芸経験の有無に応じた指導 ○作品の安定性，安全性 ◆窯，粘土板等 ◇粘土べら等
	3月	○展示及び鑑賞	2	・友達の作品を鑑賞することを通して工芸を愛好する心情を養う ・効果的な展示方法を工夫する態度を育てる	・年間を通して制作した作品を協力して展示し互いの作品のよさや美しさを味わうとともに作者の意図と表現技法を理解する	○アイデアスケッチ等も展示する ○展示物の安全に配慮しながら，視覚以外の感覚も使用して鑑賞するようにすすめる ◆展示パネル，展示台等

◆印はその題材を取り扱う際，学校で用意しておくべき主な設備・備品等，◇印は主に生徒が用意するもの。

(8) CGによるマークのデザイン（デザイン）

1 題材名　CGによるマークのデザイン

2 題材設定の理由

今日，コンピュータの普及，発達は目覚ましく，我々の生活においても身近なものとなっている。高校生のような若い世代にとってもファミコンなどのゲーム機器から馴染んでいる者が多く，楽しいもの，遊び感覚のものとして親しまれている。コンピュータを教育的な立場から創造的な道具として取り入れることは，生徒の興味関心を引きやすく，学校の施設等の実態が許す限り積極的に取り入れて行きたい道具である。コンピュータには，いろいろな機種やソフトがある。画面切り換えによってアイデアや構成の試行錯誤が容易であったり，フィル機能による着色，直線，円，幾何形体などが技術の個人差がなく，誰にでも容易にきれいに制作できる。このような多くの利点を生かして，課題学習やネットワーク題材，また「その他の科目」としての開設が考えられる。

本題材は，そのようなコンピュータの利点を生かし，クラブ，委員会等のマークデザインを制作する。制作後はビデオプリンター等でプリントアウトしたり，Tシャツに印刷したりシールに仕上げたりして，デザインを実際に生活に生かして使用して楽しめるようにするのもよい。

3 この題材で特に育てる能力，態度

①構成力（コンピュータの機能を使って，目的に合ったふさわしいデザインを考えて構成する力）

②自己探求能力（コンピュータの機能を使ってアイデアをまとめ，より美しい表現を追求していく力）

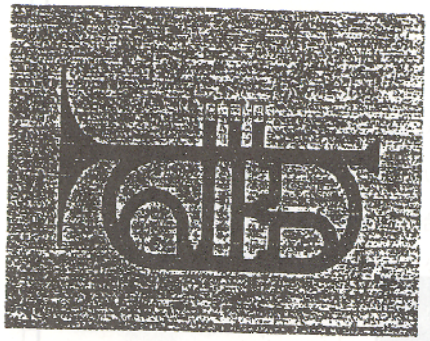
③ コンピュータ機器に対する興味・関心，操作技能

4 評価の観点

① 目的に合ったデザインの考えを深めている。

② 試行錯誤を通して構成や配色を工夫している。

③ コンピュータの機能を知り，操作が自由にできる。



ブラスバンド部のマーク

野球部のマーク

5 学習の展開

学習段階	主な学習活動	指導上の工夫
基本説明	○コンピュータを使用してデザイン制作を行うことを知る。 ○デザイン用ソフトを使用した機能の基本的な使い方を説明する。	・デザイン用ソフトはいろいろあるが，生徒の実態等に合わせたものを選択する。
導入	○課題について説明を聞く。 ○マーク・デザインの役割や目的を考える。	・スライド等でマーク・デザインの鑑賞をする。
構想と制作	○何クラブのデザインをするのか，決める。 ○CRTを使って，構成のアイデアを練る。 ○全体の構成が決まったら，CRTの画面を上で配色をしていく。	・構成，配色とも画面上の操作で，試行錯誤を繰り返し行い，目的に合ったふさわしいものを考えていく。
整理鑑賞	○紙にプリントアウトし，鑑賞する。 ○デザインをシールに印刷し，実際に使用して楽しむ。	・制作したものを実際に使用する喜びを味わうとともに，使用してみた上でのデザインについての評価も大切にする。

(10　花器の鑑賞（鑑賞）

1　題材名　　花器の鑑賞（身近なものの鑑賞）

2　題材設定の理由

文化国家であるかぎりにおいて，世界中およそどこの家庭にもあって日常頻繁に使用されているであろう工芸品の一つに花器がある。そして，多様な色彩，形体，材質をもった花器が様々な文化，日常習慣や好みと結び付いて使用され楽しまれている。

したがって，生活と工芸との関連を考えたり，工芸作品のよさや美しさを感じ取る能力を養ったり，作者の意図を汲み取ったり表現技法を研究したりするために，最も日常的な工芸品の一つである花器を取り上げて鑑賞する意義は大きい。

3　この題材で特に育てる能力，態度

① 美的判断力（色や形，材料のよさや美しさなどを楽しみをもって感じ取る力）

② 理解力（生活と工芸との関連を理解し，作者の意図と表現技法を知る力）

③ 鑑賞力（工芸品を喜びをもって評価したり批評する能力や態度）

4　評価の観点

① 作者の意図を汲み取ったり表現技法について研究して理解を深めている。

② 花器の鑑賞を通じて日常生活と工芸との結び付きを考える態度が培われた。

③ 工芸作品のよさや美しさを感じ取る能力が養われた。

5　学習の展開

① 教師，生徒ともに各自が，家庭で日常使用している花器を一つ選んで持参する。また，教師は学校において式典などで使用する花器を借りておく。持参した花器を一堂に陳列して鑑賞する（その際，置く，壁に掛ける，天井から吊すなど使用目的別にグループ分けして，置く，掛ける，吊すなどする）。

② 材質別にグループ分けするとすればどうなるか検討する。

③ 花器の色分け。

④ 花器の入り口の形体について調べて見る。

⑤ 選んで持参した理由と持参した花器について，自己評価及び批評を行う（記述方式）。次いで，口頭（あるいは記述方式）で他の生徒の持参した花器の評価と批評を行い相互に比較する。（どのような花器が最も好まれているか，調査してみるのも有意義であろう）

⑥ 以上①～⑤までを通じて得たものをヒントにして，自分で所有してみたい花器を簡単に図示し，材料や技術，技法などについて考察して見る。

＜オプション＞

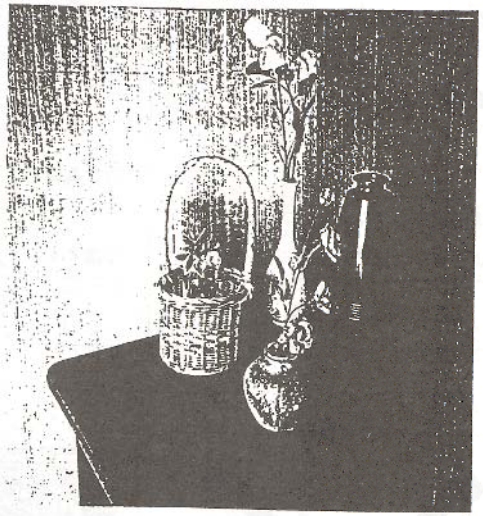
① 実際に花を活けた鑑賞と，活けない鑑賞との比較鑑賞

② 名品と言われる花器の鑑賞（スライド他）

③ 日本の花器と外国の花器の比較（文化，伝統，習慣等）

④ 花器とそれが置かれる環境との関係（畳の部屋，床の間，玄関等）の研究

（課題学習への発展も可能）



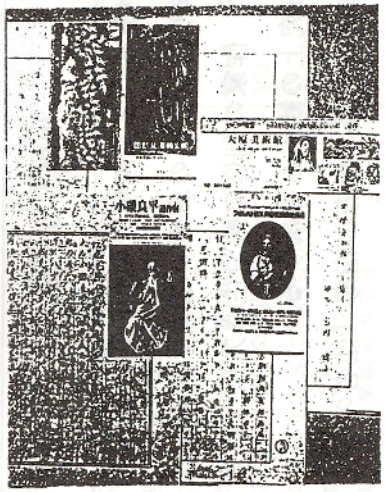
(13) 「美の探訪」……美術館を訪れて（鑑賞）

1　題材名　「美の探訪」……美術館を訪れて（鑑賞研究）

2　題材設定の理由

現代の我々の時代は「ワンタッチ時代」という人もある。ポンとスイッチを押すと労せずして目的が達成される。テレビ，ラジオ・カセット，冷暖房等，すべてが人間を受身にし，しかも即座に要求がかなえてくれることが当たり前になってきている。また，直接体験がなく，情報を処理するという関接体験ないしは擬似体験が得られることによって，その情報の処理能力によって知的優位に立ったり，自分が体験したことにこだわりをもちながら考えを展開するということを軽く見下したりする傾向もある。今後は，自分が体験したことや感じたこと，考えたことにあえてこだわりをもち，それをさらに主体的に発展させていく学習が必要である。

夏季休業中を利用して，自分が少しでも興味や関心をもった美術館などの訪問を自ら計画してみる。生徒の心の中に，美術作品の鑑賞に漠然としたあこがれはあっても，最初から特定の作品に強い興味をもって鑑賞を望む生徒の数は少ない。まず，自らの足で身近な美術館を訪れて，自らの目で鑑賞する。美術作品によって心に受けた感動を大切にし，謎解きのようにこだわりをもって，その作品や作家について調べてみる。生徒自らが直接感じたこと，魅力を覚えたこと，疑問に思ったことなどを出発点としての展開は，学習の契機が自分のものだけに，自らの探求心は強くなる。



3　この題材で特に育てる能力，態度

① 美術作品のよさや美しさを深く感じ取る力

② 他者の心情や意図の理解（作者の心情や意図を理解する能力）

③ 伝統的な美術の特質を直観する能力（作品・作家を歴史風土の中で関連付けて観ることのできる能力）

④ マナーを実践する力（美術館で他者理解の立場で理解し行動する力）

4　評価の観点

① 積極的に美術作品に関心をもち，作品のよさや美しさを味わっている。

② 自分が感動した内容について，さらに深く研究し理解しようとしている。

③ 時代や風土とのかかわり合いの中で作品や作家の理解ができている。

④ 美術館において，他の人々の存在に気を遣い，静かに深く鑑賞している。

5　学習の展開

学習段階	主な学習活動	指導上の工夫
4月	○ 美術館についての予備知識をもつ。（訪問する美術館は生徒が任意に選択する）	・休日，夏期休業中を利用しての課題「美術館訪問」についての課題の説明をしてその意義を理解させる。
8月	○美術館を訪れて美術作品を鑑賞する。 ○感想文を書く――作品の解説はあくまで最小限にとどめ，自分が作品から感じたことを主にしてまとめる。	・生徒自らの体験，自らが感じたことを大切にするということの理解の徹底 ・文化財保護という観点からも考えを深める。
9月	○新学期の第一回目の授業で感想文を提出	・クラス単位の一覧表（データベースで作成）と一冊に綴じた感想文をクラス掲示まとめた一覧表は年ごとの動向を見るデータとしても活用する。

美の探訪.TBL

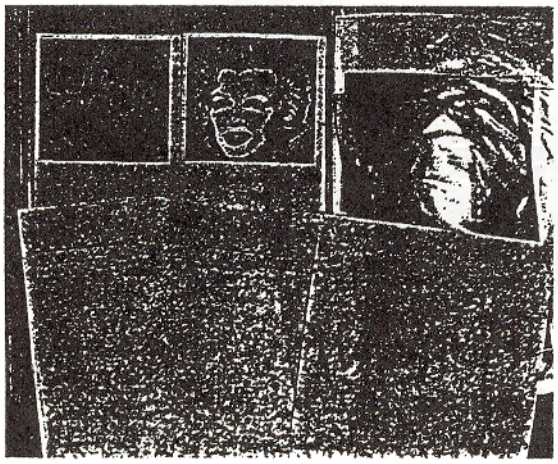
美の探訪

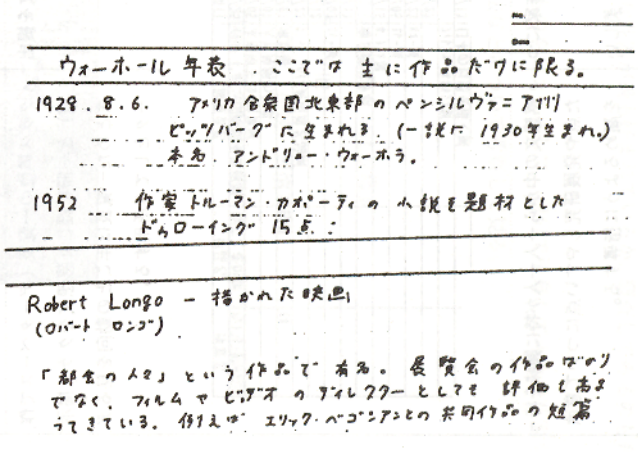
	生徒	氏名	美術館名	訪問日	展覧会名	作品名	作家名
1	1152	吉木　直美	板橋区立美術館	7/25	ｲﾀﾘｱ ﾎﾞﾛｰﾆｬ国際絵本原画展	ねことさかな	ｱﾝﾄﾞﾚｰ･ﾀﾞｰﾝ
2	1117	松崎　陸将	月山寺美術館	8/05	水墨展ﾃﾞ'91供養展		
3	2350	村上富士子	西武美術館	8/07	大竹伸朗の仕事		
4	1151	金語　里沙	西洋美術館	7/27	常設展	睡蓮	ﾓﾈ
5	1142	梅爪　理江	ｾｻﾞﾝ美術館	8/23	ｹﾞｯｹﾝﾊｲﾑ美術館名品展		
6	1148	古川　成子	上野の森美術館	8/12			
7	1103	江嶋　悟史	Bunkamuraｻﾞ･ﾐｭｰｼﾞｱﾑ	8/03	ﾐﾚｰ展		
8	1105	岡原　雄次	箱根彫刻の森美術館	8/13			
9	1106	小林　雅樹	東京国立博物館		奈良西大寺展		
10	1106	鈴木　龍	伊勢丹美術館	8/15	ﾎﾞﾅｰﾙ展		
11	1106	鈴木　龍	Bunkamuraｻﾞ･ﾐｭｰｼﾞｱﾑ	8/05	ﾐﾚｰ展		
12	1106	鈴木　龍	出光美術館	8/23	ﾙｵｰ展		
13	1112	豊水　大	紙の博物館（伊野市）	7/22			
14	1118	三村　直哉	京都国立近代美術館		ﾌｨﾚﾝﾂｪ･ﾙﾈｻﾝｽ展		
15	1109	高野　匡弘	上野の森美術館	8/13	日本の自然を描く展		
16	1101	東　[illegible]	国立西洋美術館				

9～11月	○提出した感想文に書いた作品や作家について更に研究してみる。 ・作品のどんな点に魅力を覚え，美しいと感じたのはどんな点か。	・感想文の中から一人一人が特に興味を持った点や発展研究しやすい点について意欲を高めるように指導する。 ・研究はいろいろな方面にわたり多くの観

学習段階	主な学習活動	指導上の工夫
	・作者の心情や意図と表現について考えを深める。 ・歴史の流れの中で作品の生まれた時代背景を考え，表現の特質を探ってみたり作家の研究をする。	点があることを理解させる。自ら主体的に取り組むことの意義を理解させる。 ・特に，作家の制作姿勢や生き方についての研究上の観点も指摘する。 ・図書館の利用の仕方の指導（他者の立場を理解して行動する心を育てる）
	○図書館を積極的に利用する。 ○研究リポート作成，提出	
12月	○提出されたリポートをもとにして，グループに分かれる。 ○対話形式による自分の感じたこと研究を深めたことについての意見の交換をする。 ○研究の展開・過程についての自己評価を図る。	・研究の対象となった時代や作家など，研究が共通する生徒同士で班を構成する。 ・リポートはクラス単位で一冊にまとめ掲示，発表する。
鑑賞発表会	○「美の探訪」鑑賞発表会 （各クラス６名の代表者） ○視聴覚機器を活用する。	・クラスの傾向をつかみ，時代の流れに沿って発表者を決める。(クラスの状況によっては一時代に絞り，時代の特徴という観点とする) ・視聴覚機器の積極的に活用する。 大型ビデオプロジェクター，実物役影機等

＜研究リポートの例＞





ウォーホール年表　ここでは主に作品だけに限る。

1928．8．6．　アメリカ合衆国北東部のペンシルヴァニア州ピッツバーグに生まれる。（一説に1930年生まれ。）本名．アンドリュー・ウォーホラ。

1952　作家トルーマン・カポーティの小説を題材としたドローイング15点。

Robert Longo（ロバート ロンゴ）－撮かれた映画

「都会の人々」という作品で有名。展覧会の作品だけでなく，フィルムやビデオのディレクターとしても評価を高めてきている。例えば エリック・ベゴシアンとの共同作品の短篇

附錄二五　全國美術高等學校協議會加盟校一覽

（8．10．30現在）

	学校名	〒	所在地	☎	FAX
1	八戸工業大学第二高等学校	031	青森県八戸市大字妙字大開67	0178-25-4311	0178-25-0568
2	岩手県立不来方高等学校	028-36	岩手県紫波郡矢巾町南矢幅9-1-1	0196-97-8271	0196-97-8693
3	宮城県宮城野高等学校	983	宮城県仙台市宮城野区田子字田子南1	022-254-7211	022-254-7211
4	郡山女子大学附属高等学校	963	福島県郡山市開成3-25-2	0249-32-4352	0249-33-1959
5	茨城県立取手松陽高等学校	302	茨城県取手市小文間4770	0297-77-8934	0297-73-7816
6	埼玉県立大宮光陵高等学校	331	埼玉県大宮市大字中野林字袋145	048-622-1277	048-620-1901
7	埼玉第一高等学校	339	埼玉県岩槻市大字徳力字西186	048-794-4321	048-794-4898
8	東京都立美術高等学校	153	東京都目黒区大橋2-18-58	03-3467-9494	03-3467-4991
9	東京都立羽田高等学校	114	東京都大田区本羽田3-11-5	03-3742-6533	03-3742-6634
10	東京都立大泉学園高等学校	178	東京都練馬区大泉学園町9-1-1	03-3924-3185～7	03-3924-9411
11	東京都立片倉高等学校	192	東京都八王子市片倉町1643	0426-35-3621	0426-35-0682
12	東京都立清瀬東高等学校	204	東京都清瀬市下清戸1-212-4	0424-93-7611	0424-93-3161
13	吉祥女子高等学校	180	東京都武蔵野市吉祥寺東町4-12-20	0422-22-8117・8118	0422-22-9752
14	神奈川県立弥栄東高等学校	229	神奈川県相模原市弥栄3-1-9	0427-58-4694	0427-51-6136
15	藤枝南女子高等学校	426	静岡県藤枝市前島2-1-1	054-635-1311	054-635-6119
16	常葉学園菊川高等学校	439	静岡県小笠郡菊川町半済1550	0537-35-6298	0537-35-1069
17	静岡県立清水南高等学校	424	静岡県清水市折戸3-2-1	0543-34-0431	0543-35-9763
18	静岡県立浜松江之島高等学校	430	静岡県浜松市江之島町630-1	053-425-6020	053-425-6026
19	浜松学芸高等学校	430	静岡県浜松市下池川町34-3	053-471-5336	053-475-2395
20	岐阜県立加納高等学校	500	岐阜市加納南陽町3-17	058-271-0430，0431	0582-74-8025
21	愛知県立旭丘高等学校	461	名古屋市東区出来町3-6-15	052-721-5351	052-723-6825
22	富山県立小杉高等学校	939-03	富山県射水郡小杉町三ケ1520-1	0766-55-0644	0766-55-4190
23	石川県立金沢辰巳丘高等学校	920-13	石川県金沢市末町18	0762-29-2552	0762-29-0253
24	滋賀県立栗東高等学校	520-30	滋賀県栗太郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
25	京都府立亀岡高等学校	621	京都府亀岡市横町23	0771-22-0103，0128	0771-22-0128
26	京都市立銅駝美術工芸高等学校	604	京都市中京区土手町通り竹屋町下る鉾田町542	075-211-4984	075-211-8994
27	奈良県立高円高等学校	630	奈良県奈良市白毫寺町633	0742-22-5838	
28	橿原学院高等学校	634	奈良県橿原市久米町222	07442-7-3242	07442-7-5402
29	大阪府立港南高等学校	559	大阪市住之江区南港東2-5-72	06-613-1000，1001	06-613-6752
30	大阪市立工芸高等学校	545	大阪市阿倍野区文の里1-7-2	06-623-0485，0486	06-623-8419
31	夙川学院高等学校	662	兵庫県西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596
32	兵庫県立明石高等学校	673	兵庫県明石市荷山町1744	078-911-4376	078-911-4377
33	岡山県立総社南高等学校	719-11	岡山県総社市三輪626-1	0866-93-6811	0866-93-6855
34	広島県立熊野高等学校	731-42	広島県安芸郡熊野町川角128-1	082-854-4155	082-854-4155
35	徳島県立名西高等学校	779-32	徳島県名西郡石井町石井字石井21-11	0886-74-2151	0886-74-8315
36	済美高等学校	790	愛媛県松山市湊町7-9-10	089-943-4185	089-943-3121
37	香川県立高松工芸高等学校	760	香川県高松市番町2-9-30	0878-51-4144	0878-51-4146
38	高知県立岡豊高等学校	783	高知県南国市岡豊町中島511-1	0888-66-1313	0888-66-5352
39	福岡県立太宰府高等学校	818-01	福岡県太宰府市高雄3-4114	092-921-4001	092-928-0758
40	佐賀県立佐賀北高等学校	840	佐賀県佐賀市天祐2-6-1	0952-26-3211	0952-25-7042
41	長崎日本大学高等学校	854	長崎県諫早市貝津町1555	0957-26-0061	0957-25-1622
42	大分県立芸術文化短期大学附属緑丘高等学校	870	大分県大分市上野丘東1-11	0975-43-2981	0975-43-2979
43	熊本県立第二高等学校	862	熊本県熊本市東町3-13-1	096-368-4125	096-365-5636
44	熊本県立大津高等学校	869-12	熊本県菊池郡大津町大津1340	096-293-2751	096-293-8566
45	熊本県立南関高等学校	861-08	熊本県玉名郡南関町関町64	0968-53-0004	0968-53-3403
46	九州女学院高等学校	860	熊本県熊本市黒髪3-12-16	096-343-3246	
47	鹿児島県立松陽高等学校	899-27	鹿児島県日置郡松元町福山573	099-278-3986	099-278-1838
48	沖縄県立開邦高等学校	901-11	沖縄県島尻郡南風原町字新川646	098-889-1709，1715	098-889-1709

附錄二六

指導計畫書

東京都立藝術高等學校

平成 8 年度

教科 美術

科目 素描 油彩

単位数 4 + 6 = 10

学科	学年	コース	必選別	生徒数 男	生徒数 女	生徒数 計	教室
美大	3	B	必	3	12	15	2-461

教科書

著者名	
発行所	
検定日	

指導の要点：

油絵および素描表現の多様な技法を熟知させる。

作品の制作を通じて的確な観察力と鑑賞力する力を養わせる。

月	週	日	進度予定 月 3・4	月 5・6	火 3・4	木 5・6	1 2 3 4
4	1	8~13				素描 ①	
	2	15~20	②	③	①	⑤ (講)	素描 ① ②
	3	22~27	③	④ 講評	素描 ①	②	
5	4	29~4			③ 講評		
	5	6~11			卒業制作	卒業制作	
	6	13~18	卒業制作	〃	〃	〃	素描
	7	20~25	素描	卒業制作	〃		
6	8	27~1	卒業制作	〃	〃	〃	素描
	9	3~8	素描	卒業制作	〃	〃	
	10	10~15	卒業制作	〃	〃	〃	素描
	11	17~22	素描	卒業制作		卒業制作	
	12	24~29	卒業制作	〃	〃	〃	素描
7	13	1~6	素描	〃	〃	〃	
	14	8~13					
9	15	2~7			卒業制作	〃	〃
	16	9~14	卒業制作	〃	〃	〃	
	17	16~21			卒業制作		
	18	23~28				コスチューム 素描 ①	
10	19	30~5	②	③ 油彩コスチューム		④	素描 ⑤
	20	7~12	③ 素描 構成	④	⑤ 講評		
	21	14~19	① 人物コスチューム (油彩)	②	③	④	⑤ 講評
	22	21~26	素描 ①	構成 ②			
11	23	28~2	③	① 人物ヌード ①		②	③
	24	4~9			(4) 人物ヌード (油彩)	(5)	
	25	11~16	名画 ① デッサン ②		素描 (1)		素描 ② 講評
	26	18~23	素描 ① コスチューム (油彩)			④ 講評	
	27	25~30	① 人物コスチューム (油彩)	②	③	④	⑤ 講評
12	28	2~7	素描 ①	② ヌード	③ (油彩)	④	⑤ 講評
	29	9~14					
1	30	6~11				素描 ①	
	31	13~18	②	③	④	講評	人物 ①
	32	20~25	② 人物コスチューム	③ 油彩	④	⑤ 講評	
2	33	27~1	素描 ①	②	③	④ 講評	
	34	3~8					
	35	10~15					
	36	17~22					
	37	24~1					
	38	3~8					
	39						
	40						
	41						

附録二七

■生徒在籍数

学科＼学年		1年		2年		3年		計	
音楽科	男	5	41	2	42	2	31	9	114
	女	36		40		29		105	
美術科	男	9	40	6	41	5	44	20	125
	女	31		35		39		105	
計	男	14	81	8	83	7	75	29	239
	女	67		75		68		210	

■生徒通学所要時間

	音楽科	美術科	計
30分未満	10	6	16
30分～ 45分未満	19	25	44
45分～ 60分未満	27	45	72
60分～ 75分未満	32	23	55
75分～ 90分未満	16	21	37
90分～105分未満	6	3	9
105分～120分未満	3	2	5
120分以上	1		1
合　計	114	125	239

■生徒居住地一覧

地域＼科	音楽科	美術科	計	地域＼科	音楽科	美術科	計
世田谷区	15	15	30	板橋区	2	4	6
杉並区	11	5	16	日野市		6	6
大田区	4	9	13	新宿区	3	2	5
練馬区	9	5	14	北区	1	2	3
足立区		4	4	目黒区	4	4	8
江戸川区	4	2	6	東久留米市	3	3	6
江東区	6	5	11	品川区	2	6	8
葛飾区	5	4	9	三鷹市		3	3
八王子市	5	2	7	その他	38	36	74
町田市	2	8	10	合　計	114	125	239

■校　時　表

予　鈴	8：25
1時限	8：30～ 9：20
2時限	9：30～10：20
3時限	10：30～11：20
4時限	11：30～12：20
予　鈴	13：05
5時限	13：10～14：00
6時限	14：10～15：00

■卒業生の進路

音　楽　科

進路＼卒業 合格者数	平成6年3月			平成7年3月			平成8年3月		
	現	浪	計	現	浪	計	現	浪	計
東京芸大(音)	2	3	5	2	2	4	5	1	6
お茶の水大							1		1
東京学芸大	2		2		2	2			
武蔵野音大	3	4	7	3	5	8	3	2	5
桐朋学園大(音)	2	4	6	6	2	8	6	1	7
〃　短大				1		1			
国立音大	4		4		1	1	5		5
洗足学園大(音)		1	1						
〃　短大	1		1						
東京音大	4	7	11	8	7	15	6	9	15
フェリス女学院大		1	1	1	1	2	1	4	5
日本大(芸術学部)	1	2	3				1		1
大分県立芸術文化短大								1	1
昭和音短大								1	1
東京純心女子短大		1	1						
東邦音楽短大		1	1						
埼玉大					1	1		1	1
成城大								1	1
東洋英和女学院大							1		1
法政大							1		1
立教大		2	2						
早稲田大		3	3						
上記以外の大学・学校		3	3				1		1
合　計	19	32	51	21	21	42	31	21	52

美　術　科

進路＼卒業 合格者数	平成6年3月			平成7年3月			平成8年3月		
	現	浪	計	現	浪	計	現	浪	計
東京芸大(美)		5	5		2	2	1	3	4
東京学芸大		2	2					1	1
沖縄県立芸術大								1	1
広島市立大		1	1					1	1
武蔵野美大	1	5	6		6	6	1	3	4
〃　短大	1	2	3	1	1	2			
多摩美大	2	6	8	2	7	9		8	8
〃　II部		1	1		2	2	1	1	2
東京造形大	1	2	3		5	5		1	1
女子美大	1	2	3		1	1			
女子美短大	1		1	1	1	2		1	1
日本大(芸術学部)	2	1	3		1	1	2		2
跡見学園女子大				1		1			
東京工芸大								2	2
東北芸術工科大		1	1		1	1			
玉川大								1	1
東洋大		2	2						
明星大					2	2			
和光大				1		1			
早稲田大		1	1						
桑沢デザイン	1	2	3	3	1	4	2		2
石川県立輪島漆芸技研							1		1
上記以外の大学・学校	3	5	8	7	5	12	4	2	6
合　計	13	38	51	16	35	51	12	25	37

附錄二八

◇平成七年度美術科年度指導計畫表

香川縣立高松工藝高等學校美術科

科目	絵　画	学年	2年

学期	時数	題　　材	学習内容と指導の留意点
1学期	4月（4） 5月（8） 6月（8） 7月（4）	○静物画（油彩） 日常生活の身近なものを描く 〔キャンバスＦ１５号〕	・油絵の道具の基本的な扱い、絵の具の性質などを知って親しみを持ち制作する。 （油絵の具が酸化重合により乾燥することを理解する。） ・鉛筆によるエスキースを試みる。 ・モチーフの造形要素を意欲的に探り、画面への定着と構成に生かす。 ・構図と構成の研究をする。 ・講評
2学期	9月（6） 10月（8） 11月（8） 12月（6）	○静物画（油彩） 石膏像と布、金属器、ビンなどを描く 〔キャンバスＦ１５号〕	・モチーフの個々の性質を知り、存在感の表現をする。 ・遠近法的な捉え方に基づいてモチーフ同士の位置関係およびモチーフ台との関係を正確に表現する。 ・ヴァルールの理解を深め、光と色彩の表現をする。 ・空間感を表現する。 ・筆触のおよぼす画面効果を発見してマチエールへの興味を持つ。 ・講評
3学期	1月（6） 2月（6） 3月（6）	○人物画（油彩） 自画像（上半身）を描く 〔キャンバスＦ１５号〕	・人体の動きと骨格について理解する。 ・肉体の量感と着衣との関係に留意する。 ・自分と背景との関係に興味を持つ。 ・自己認識を深める。 ・講評
合計 ７０時間		※美術科では２年で油彩の学習が始まり、この「２年絵画」では１年間油彩を専門に学習する。	

◇平成七年度美術科年度指導計畫表

香川縣立高松工藝高等學校美術科

科目	彫　塑	学年	3年（彫塑専攻生徒）

学期	時数	題　　材	学習内容と指導の留意点
1学期	4月 (12) 5月 (24) 6月 (24) 7月 (18)	○粘土塑造（人体首像） 友人をモデルにして制作する ○石膏取りをする ○粘土塑造（自分の腕）	・モデルの特徴を観察し、ムーブマンとボリュームの関係を立体的に把握する。 ・正中線と目、鼻、口、耳の位置の確認 ・講評 ・自分で腕のポーズを決め、粘土でつくる。 ・魅力的なポーズの研究 ・骨、関節、筋肉等の的確な把握 ・形の流れの確認
2学期	9月 (24) 10月 (24) 11月 (24) 12月 (18)	○石膏取りをする ○粘土塑造（小動物） 生きている鶏、うさぎ鳩等を使う ○石膏取りをする ○粘土塑造 全身像をつくる （小面人体）	・講評 ・モデルの動きをよく観察する。 ・動物の特徴を引き出すポーズの選択 ・講評 ・地面に立ち上がる基本的形態の表現方法の確認
3学期	1月 (18) 2月 (24)		・講評
合計 ２１０時間		※美術科３年は「油彩」「水彩」「彫塑」「デザイン」の４科目から１科目選択し、選択した科目の専門分野のみを１年間学習する。	

◇平成七年度美術科年度指導計畫表

香川縣立高松工藝高等學校美術科

科目	絵　画（日本画）	学年	3年（日本画専攻生徒）

学期	時数	題　材	学習内容と指導の留意点
1学期	4月 (12)	○日本画について ○着彩画 ①鉛筆デッサン バラ、水差し、アボカド、布 ②着彩	●東洋絵画史 ― 宋、元時代からの影響 ●日本絵画史 ― 日本画の変遷　●日本画の材料・技法 用具、用材を見せたり、スライド、写真、画集等を用い説明する。 ・構図に留意し、描き始めから空間を意識する。
	5月 (24)	○着彩画 ①鉛筆デッサン ユリ、ホーローの器布、リンゴ ②着彩	・５０色あまりの透明水彩絵の具を用い、自然の色を追求する。 ・花の構造を捉えるとともに清楚で生き生きとした花の様子を表現する。 ・講評
	6月 (24)	○着彩画 ①鉛筆デッサン 南瓜、玉葱、人参、レモン、中華鍋	・素材を各自が任意に組合せ、量感、空間、質感を追求するとともに実在感も表現する。 ・部分的に不透明水彩絵の具を使って物の厚みを表現する ・講評
	7月 (18)	○模写（着彩）	・線描について ―― 鉄線描、遊糸線、肥瘦線、折芦線白描の粉本を上げ写しの方法で模写をする。 ・講評
2学期	9月 (24)	○着彩画 ①鉛筆デッサン 花（コスモス、グラジオラス）、旗、石膏像果物、ガラス器	・鉛筆デッサンの段階で量感はむろん空間、質感まで表現する。
	10月 (24)	②着彩	・背景も描写することによって現実的な空間感を広げる。 ・講評
	11月 (24)	○精密写生 干し魚、菊、胡桃、青菜	・単品をより丁寧に観察し、描写することによって表現技術を高める。 ・講評
	12月 (18)	○人物画着彩	・解剖学的な見地から身体の構造を理解する。 ・講評
3学期	1月 (18)	○着彩画 ①鉛筆デッサン 花（チューリップ） リンゴ、ホーローの器	・背景は抽象的な表現とし、感覚的な要素も取り入れる。様々な絵肌も試みる題材の美しい形を見つけだす。
	2月 (24)	②着彩	・触覚的な描写力をつける。 ・講評
合計 ２１０時間		※美術科３年は「油彩」「水彩」「彫塑」「デザイン」の４科目から１科目選択し、選択した科目の専門分野のみを１年間学習する。	

◇平成五年度美術科年度指導計畫表

香川縣立高松工藝高等學校美術科

科目	美術概論	学年	1年

学期	時数	題材	学習内容と指導の留意点
1学期	4月 (4)	○オリエンテーション	・学習内容の説明 ・美術に対する意識調査（生徒アンケート） ・どういうものが美術とよばれるのか（その内容、範囲）
	5月 (8)	○美術の各分野	・絵画、彫刻、建築、工芸、デザイン等美術の各分野についてどのようなものが存在しているかを学習する。
	6月 (8)	○美術と人間との関わり	・人間にとって美術はどういう意味を持つのか（その意義） ・社会の中で美術はどのように位置づけられて存在し、機能しているか。
	7月 (4)		・純粋美術とデザインとの相違点、共通点
2学期	9月 (6)	○絵画—その内容と歴史	・フレスコ、モザイク、ステンドグラス、テンペラ等歴史的な側面から ・油彩、水彩、日本画、版画等ジャンル別に ・具象、抽象等表現形式の側面から ・現代作家の作品例—社会と自分との関わり
	10月 (8)		
	11月 (8)	○彫刻—その内容と歴史	・古代ギリシャ、中世、ルネッサンス等各時代を歴史的な側面から ・石彫、木彫、塑造および現代の金属やコンクリートなど素材の側面から ・現代作家の作品例—社会と自分との関わり
	12月 (6)		の興味
3学期	1月 (6)	○工芸—その内容と歴史	・西洋と日本との特質の違い ・日本の工芸を生み出した日本人の民族性、感性の特徴、日本の独特な気候風土について ・現代作家の作品例—社会と自分との関わり
	2月 (6)	○デザイン—その内容と歴史	・１９世紀に成立した近代デザインとそれ以前の、生活を美的に豊かにするための人間の営みについて歴史的な側面から ・各種デザインの実例 ・デザインが社会の中で果たすべき役割について
	3月 (6)		
合計 ７０時間			

附録二九

教　育　課　程

平成７年度以降入学生用（平成６年度入学生は下記の表の単位の上に備考欄の単位を増加している。）

科		金属工芸科			
タイプ		A			
卒業必要最低修得単位数		84			
教科	科目＼単位数＼学年	単位数 1年	2年	3年	計
国語	国語Ⅰ	4			4
	国語Ⅱ		2	2	4
	現代文		※2	#2	※2+#2
地理歴史	世界史A		2		2
	日本史A			2	2
	地理A			2	2
公民	現代社会	2	2		4
数学	数学Ⅰ	2	2		4
	数学A			2	2
理科	化学ⅠA	2			2
	生物ⅠA			2	2
	地学ⅠA	2			2
保健体育	体育	2	2	3	7
	保健	1	1		2
芸術	美術Ⅰ	2			2
外国語	英語Ⅰ	3	3		6
	英語Ⅱ				
	オーラル・コミュニケーションA			3	3
家庭	家庭一般		2	2	4
普通科目計		18	16+※2	16+#2	50+※2+#2
専門に関する教科目（工業）	工業基礎	2			2
	実習	4	4	4	12
	製図	2	※2	2	2+※2+2
	工業数理	2			2
	情報技術基礎		2		2
	課題研究			2	2
	デザイン史			2	2
	デザイン技術	2	2	#2	4+#2
	デザイン材料		2		2
	工業英語		2		2
	工芸絵画		2	2+2	4+2
専門科目計		12	12+※2	12+#2	36+※2+#2
合計		30	30	30	90
特別活動（週当単位時間）		2	2	2	6

科		漆芸科			
タイプ		A			
卒業必要最低修得単位数		84			
教科	科目＼単位数＼学年	単位数 1年	2年	3年	計
国語	国語Ⅰ	4			4
	国語Ⅱ		2	2	4
	現代文		※2	#2	※2+#2
地理歴史	世界史A		2		2
	日本史A			2	2
	地理A			2	2
公民	現代社会	2	2		4
数学	数学Ⅰ	2	2		4
	数学A			2	2
理科	化学ⅠA	2			2
	生物ⅠA			2	2
	地学ⅠA	2			2
保健体育	体育	2	2	3	7
	保健	1	1		2
芸術	美術Ⅰ	2			2
外国語	英語Ⅰ	3	3		6
	英語Ⅱ				
	オーラル・コミュニケーションA			3	3
家庭	家庭一般		2	2	4
普通科目計		18	16+※2	16+#2	50+※2+#2
専門に関する教科目（工業）	工業基礎	2			2
	実習	4	4	6	14
	製図		2	2	2+2
	工業数理	2			2
	情報技術基礎		2		2
	課題研究			2	2
	木材工芸	2			2
	デザイン史		※2		※2
	デザイン技術	2	2	#2	2+#2+2
	工業英語		2		2
	工芸絵画		2	2+2	4+2
専門科目計		12	12+※2	12+#2	36+※2+#2
合計		30	30	30	90
特別活動（週当単位時間）		2	2	2	6

備考　平成６年度入学生は１年時数学Ⅰと実習をそれぞれ１単位増加している。［，※，＃は選択科目を示す。

科		インテリア科			
タイプ		A			
卒業必要最低修得単位数		84			
教科	科目 ＼ 学年 ＼ 単位数	単位数 1年	2年	3年	計
国語	国語 I	4			4
	国語 II		2	2	4
	現代文		※2	#2	※2+#2
地理歴史	世界史 A		2		2
	日本史 A			2	2
	地理 A			2	2
公民	現代社会	2	2		4
数学	数学 I	2	2		4
	数学 A			2	2
理科	化学 I A	2			2
	生物 I A			2	2
	地学 I A	2			2
保健体育	体育	2	2	3	7
	保健	1	1		2
芸術	美術 I	2			2
外国語	英語 I	3	3		6
	英語 II				
	オーラル・コミュニケーションA			3	3
家庭	家庭一般		2	2	4
普通科目計		18	16+※2	16+#2	50+※2+#2
専門に関する教科目（工業）	工業基礎	3			3
	実習	3	4	4	11
	製図	2	2	2+#2	6+#2
	工業数理	2			2
	情報技術基礎		2		2
	課題研究			2	2
	インテリア計画	2			2
	インテリア装備		※2		※2
	インテリアエレメント生産		2		2
	デザイン技術			2	2
	工業英語		2		2
	工芸絵画		2	2+2	4+2
専門科目計		12	12+※2	12+#2	36+※2+#2
合計		30	30	30	90
特別活動（週当単位時間）		2	2	2	6

科		デザイン科			
タイプ		A			
卒業必要最低修得単位数		84			
教科	科目 ＼ 学年 ＼ 単位数	単位数 1年	2年	3年	計
国語	国語 I	4			4
	国語 II		2	2	4
	現代文		※2	#2	※2+#2
地理歴史	世界史 A		2		2
	日本史 A			2	2
	地理 A			2	2
公民	現代社会	2	2		4
数学	数学 I	2	2		4
	数学 A			2	2
理科	化学 I A	2			2
	生物 I A			2	2
	地学 I A	2			2
保健体育	体育	2	2	3	7
	保健	1	1		2
芸術	美術 I	2			2
外国語	英語 I	3	3		6
	英語 II				
	オーラル・コミュニケーションA			3	3
家庭	家庭一般		2	2	4
普通科目計		18	16+※2	16+#2	50+※2+#2
専門に関する教科目（工業）	工業基礎	2			2
	実習	4	4	5	13
	製図	2	2	2	4+2
	工業数理	2			2
	情報技術基礎		2		2
	課題研究			2	2
	デザイン史		※2		※2
	デザイン技術	2	2	#2	2+#2+2
	工業英語		2		2
	工芸絵画		2	3+2	5+2
専門科目計		12	12+※2	12+#2	36+※2+#2
合計		30	30	30	90
特別活動（週当単位時間）		2	2	2	6

備考　平成6年度入学生は1年時数学1と実習をそれぞれ1単位増加している。［，※，#は選択科目を示す。

附録三〇

九七年度　　年度指導計畫

教科名：藝術
科目名：工藝Ⅰ
對　象：一年
擔當者：鈴木國義　印

教務　　印

月	予定時間	単　元	指導項目・指導内容	指　導　目　標	主な評価項目・方法
4月	4	木でつくる（ﾊﾝｶﾞｰ制作）	オリエンテーション アイディアスケッチ 製図	○工芸Ⅰの内容についての理解。 ○機能性、木材の性質についての理解。 ○制約条件下での表現。 ○図法の理解、的確な表示	・制約条件の下でアイディアを十分具体化できたか （図面提出）
5月	１０		木取り・切断（鋸） 荒彫り（鋸・鑿・鉋）	○全行程の計画、理解。 ○工具の使用法、技術の理解と習得、適切な選定・使用。	・指導項目・内容・目標に照らして評価を行う。
6月	4		削り加工（各種ヤスリ）	○立体や空間としての認識思考。 ○計画に従った、成形の進行、表現。	
7月	6		木地仕上げ（サンドペーパー）	○塗装のための素地調整の理解、習得。	
8月					
9月	6		木地仕上げ 接合	○接着剤の使用法の理解。	

工藝Ⅰ

月	予定時間	単　元	指導項目・指導内容	指　導　目　標	主な評価項目・方法
10月	4		塗装 完成	○塗装技術の理解、習得。 ○自己評価、合評。	・制作の結果だけではなく、制作過程でのデザインの発展、努力にも評価を与える。 （作品提出）
11月	8	土でつくる（陶芸）	手びねりによる成形 完成	○ひもずくり、板づくりについての理解。 ○陶芸の成形技術について理解、習得、表現。 ○自己評価、合評。	・指導項目・内容・目標に照らして評価を行う。 （作品提出）
12月	4	時計づくり（七宝焼き）	自然物のスケッチ デザイン	○七宝焼き、金属加工についての理解。 ○自然物の特徴を生かしたデザイン。	・指導項目・内容・目標に照らして評価を行う。 （作品提出） （作品提出）
1月	6		加色図案 銅板加工（切断、打ち出し）） 酸洗い 裏引き→焼成	○形体の抽象化、構成、配色計画。 ○技法、用具の使用法についての理解、習得。 ○適切な焼成の温度、時間の	
2月	6	（額の製作）	酸洗い 絵付け→焼成 切断、削り加工 木地仕上げ	理解、習得。 ○七宝技法の理解、適切な用具の使用について理解、習得、表現。 ○デザインの十分な具体化。 ○用具の使用法の習熟。 ○素地調節の習熟。	
3月	2		塗装 完成（七宝焼き、額、時計キットを組み合わせる）	○塗装技術の習熟。 ○自己評価、合評。	・制作の結果だけではなく、制作過程での試行錯誤、努力にも評価を与える。 （作品提出）

【備考】

九七年度　　年度指導計畫

教科名：藝術
科目名：工藝Ⅱ
對　象：二年
擔當者：鈴木國義　印

教務　　印

月	予定時間	単　元	指導項目・指導内容	指　導　目　標	主な評価項目・方法
4月	4	積層工芸	オリエンテーション アイディアスケッチ	○工芸Ⅱの内容につての理解。 ○積層工芸についての理解。（機能性、積層の方向、形体）	・制約条件、積層工芸の特性を考えたデザインができたか。（作品提出）
5月	10		イメージスケッチ 製図 木取り	○立体的な形体の把握と陰影の表現。 ○図法の理解と的確な表示。 ○積層ベニヤの大きさ、木目を考慮し、木取り。	・指導項目・内容・目標に照らして評価を行う。（作品提出）
6月	6		鋸挽き 削り加工	○バンドソー、糸鋸盤の使用法についての理解。 ○全工程の理解と計画的な作業の進行。 ○工具の的確な使用と表現。	
7月	6				
8月					
9月	4		接合 削り加工	○クランプの使用法についての理解。ブロック別に圧着 ○平面、曲面の正確な成形。	

工藝Ⅱ

月	予定時間	単　元	指導項目・指導内容	指　導　目　標	主な評価項目・方法
10月	4		↓	○工具の使用法の習熟	・計画通りにデザインが実現しているか。
11月	8		素地調整 塗装 完成	○徹底的に研磨させる。 ○塗装技術の習熟 ○自己評価、合評。	制作の結果だけではなく、制作過程での試行錯誤、努力にも評価を与える。 （作品提出）
12月	4	陶芸	練り込み成形	○練り込み成形技法の理解と習得	・指導項目・内容・目標に照らして評価を行う。
1月	8	籐工芸	焼成 施釉 小物制作	○焼成法（温度、時間）の理解と実際 ○施釉法の理解、習得 ○籐の歴史、原産地の理解 ○籐編み技法の理解と実際	・指導項目・内容・目標に照らして評
2月	6		底作り 窯詰め 焼成 模様編み 窯出し（完成）	○丸底、角底、楕円底の技法の理解、習得。 ○模様編み技法の理解と実際 ○自己評価、合評。	価を行う。
3月	2		（完成）	○自己評価、合評。	・指導項目・内容・目標に照らして評価を行う。